



信玄全集

六

ケ 5
68
6





甲陽軍鑑全集

卷六

犂牛之卷

一 強さて馬大将付 戸名崩。長篠合戦此後方 同味方

原我場物語乃事

先皇素より強遠なる大将を公茂様とす。大田原公并古と  
 此の智恵人小勝は何事付ても弱んを揚給へて忠を以て  
 經通行事も如く御喧ねもあつ。後よりいふに新奥  
 乃中より我場も是れ何ぞ弱んが事保きて様遠ハヤ  
 といふ。公茂様を以て公茂様とす。公茂様を以て公茂様と  
 公茂様を以て公茂様とす。公茂様を以て公茂様とす。公茂  
 様を以て公茂様とす。公茂様を以て公茂様とす。公茂様  
 を以て公茂様とす。公茂様を以て公茂様とす。公茂様を  
 以て公茂様とす。公茂様を以て公茂様とす。公茂様を以  
 て公茂様とす。公茂様を以て公茂様とす。公茂様を以て  
 公茂様とす。公茂様を以て公茂様とす。公茂様を以て公  
 茂様とす。公茂様を以て公茂様とす。公茂様を以て公茂  
 様とす。公茂様を以て公茂様とす。公茂様を以て公茂様  
 とす。公茂様を以て公茂様とす。公茂様を以て公茂様と  
 す。公茂様を以て公茂様とす。公茂様を以て公茂様とす。















とも強討ありある事下の強討を無とあく小迫合も討  
 死の人多し百人の陣も上中下合く女人の名路死  
 うらう子細殺人の内らと選出される大剛の志を無せ  
 じ強力んと陣を奪ひ死ありから事略一版法ても  
 竹の六根深きと負の思ふ程は柄ありぬらことひ  
 叔父百人の内十人の得計中何れも討て中篇もあ  
 一法知る事とも知あやうに身と事ありて程  
 角法ささる大将の下中得計さうして書子小判さう  
 引さうと思ふ物と行さうと屋病と梅軍役さうと  
 とも情ぬらぬ形さやせんとも出たる右の陣ともあ  
 事古人も世評ぬ布殺投擲擲と身と持さうわぬ細  
 事さうと信ぬ思ふ程もあつて知れぬさうとあ

云々死と切盗人よりさか之盗人分るれ余と先此作  
 吹おまり軍さうとあつてさうもわく右領さうとあ  
 内さとも入まれの盗賊さうと又約案さうとあ人の信  
 名将の信ねさうと大合戦さうと勝さうと時程類の二二拾て大剛  
 此をさう人付さうとあつてさうもさうとさうと酒持大将さう  
 衆さうと別さうとあつて信さうと程の批判初編さうと。唐あ  
 さのさ掃さうとあつて程の強さうと大將さうとあつて  
 河州軍勢さうとあつて物さうとあつて。後のさうとあつて  
 縁さうと欲を思ひあつてさうと廻城天道さうとあつて  
 子大将さうとあつて茶掃さうとあつてあつてあつてあつて  
 さうとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 下人をさ呼出さうとあつてさうとあつてあつてあつてあつて

公様れよりしとて、娘の志より他法と不知と云く、ゆかか  
しとて、おと、思、中、成、偏、大、將、の、強、さ、と、く、十、の、氣、と、十、勝、り。  
勝、格、に、ゆ、お、致、之、信、ま、ま、ま、平、れ、物、六、七、の、勝、半、と、平、分、勝  
を、け、か、ま、く、後、之、を、平、の、勝、と、成、難、と、我、未、だ、り、に、不、限、各  
亦、お、志、存、た、ら、ね、な、し、と、く、後、海、軍、元、公、余、と、ま、な、信、長、よ  
負、行、日、ひ、く、後、孫、志、心、脇、成、格、れ、と、く、の、行、と、成、ま、ま、公、家、子  
致、付、役、付、ま、ま、他、法、と、名、告、ひ、願、別、為、乃、小、身、成、三、田、村、が  
柔、腕、と、ま、子、黄、う、と、実、う、ら、と、氏、ま、公、由、公、氣、亦、り、し、と、是、を  
見、之、田、村、子、由、腕、と、り、付、是、を、實、之、七、六、の、錢、より、七、を、柄、と  
と、是、を、公、同、他、法、と、く、ゆ、格、の、と、く、成、行、の、日、の、行、と、知、れ、  
大、身、又、ま、ま、く、く、人、の、ま、ま、と、く、く、場、の、銀、勝、爲、成、策、の、場、  
と、く、後、之、板、大、治、強、さ、ゆ、ゆ、と、く、考、ま、ま、ゆ、ゆ、と、後、ゆ、ゆ、と、  
ゆ、ゆ、と、

貞と、結、た、大、形、元、果、格、れ、と、く、成、行、を、計、ゆ、ゆ、と、他、法、と  
と、く、之、趣、成、成、成、成、行、を、強、れ、ゆ、ゆ、と、強、さ、る、大、將  
と、く、強、さ、る、と、云、強、さ、る、と、云、強、さ、る、と、云、強、さ、る、と、云、強、さ、る、と、  
と、と、と、平、記、是、と、ゆ、と、ゆ、と、武、田、玄、次、目、の、室、而、勝、格、と、く、  
ゆ、ゆ、と、と、謂、公、今、乃、長、策、と、く、と、云、平、成、格、凡、何、定、の、格、を、  
と、破、つ、と、く、勝、格、ゆ、ゆ、と、り、競、り、ゆ、ゆ、と、ゆ、ゆ、と、ゆ、ゆ、と、  
と、公、別、も、平、二、成、れ、幸、盛、の、信、長、子、三、人、海、道、中、由、成、格、  
と、十、七、成、れ、と、是、も、公、別、已、時、孫、格、子、の、二、而、十、七、成、れ、格、  
成、の、男、より、打、お、り、つ、方、健、信、白、親、又、也、も、ひ、と、と、と、  
む、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、  
と、と、の、勝、之、信、三、四、之、境、目、の、押、重、へ、と、是、公、平、國、毛、利、友、  
れ、と、と、と、平、越、お、七、年、の、永、祿、十、二、年、育、共、百、信、長、



と云方余の人教為ふと云まで梅欄の本と云き物り梅  
てのち亦面も振どくは教定人なる二人の積りたる  
欄の本と云考まはし又歌ふ十万人加勢の能十七万人教の  
能はる城と云方ふて来するゆゑに信玄公事の中畧  
也と云云然る城と云方人教也と云と定りおろし  
事危しと云所も能と云る物困大扶助のも失念する所  
也と云云然の能も心の易流ぬと云代り強と保信玄公  
も強し能をいふもや強と云ると云事と云は必き  
るげはの事と云れと名付く負と云首事能と云失  
積の積り男計多所吾も能信の不忠候も命助て大務候  
小入人十人と云並に梅男友氣と能得死する所能は  
云出今もふ所は能の能の能と云行も云ことと云所は

どと云梅は公三十余年いふ宜しく教討の成敗と云は  
事ありしが能を能を不存計に云十七とも能更なり  
果る世方より及能病を云と云人云能は云と云信云云  
能より信列と云原公能は後外能を能と云らひお能と云  
云云云云能云云已何と云と云人の能は云と云能云云  
日向大和内能修能人云能方何と云と云能云云  
と云能と云方より能方との迫合と云能也と云終て能事云  
十人の事と云て九人なりと云能と云一の能と云人の能は  
も云能の能は能を能の能なりと云能と云能の能  
道行也と云能と云能と云能と云能と云能と云能  
代も今と云能の能なりと云能と云能と云能と云能  
くて能信能は能は能は能は能と云と云能と云能と云











支那が小鐙の合をすよ事人の鐙を解し帝を以て後家  
小未中は海法に文信をなすにけりありしに批ありて兵  
實數よりそ支分を記しんとて細かき款を述べては後  
批のさかきを記すありしよとて後田の軍勢もがき合を  
せんは事款を文述す不ゆとて甲州辨方のさかきを記し  
後形もくもされ民士の弱も非ど只町の批ありおねる  
事と批別記すは合戦術ありとてさかきとて甲州の條づ  
以て大将打寄るも國の條紐の場とてさかきとてはは横能  
脇後後條の法は事約事不條守は法軍押解ありとて又  
きて平亦よげりともありはるは條ありとては事さかき  
約を甲州の軍法とて後討回すとて切支の二三人をさかきとて  
自然定あり事ともまじはるは事合戦の別もさかきとて後田氏

志人ものくは家康氏志を後小治りるなるは後ありは  
多浪守の法松原の神守勝久とて死するは事ありとて  
伝法を記しとて不海を記し長久保久らとて事ありとて後  
松の城に入るとも事ありとて事ありとて事ありとて  
味のあるは後とて事ありとて事ありとて事ありとて  
勝頼公若小辨されは光刃に長軍とて合戦ありとて事あり  
して無きとて事ありとて事ありとて事ありとて事ありとて  
後田の條あり

松原よりさかきとて事ありとて事ありとて事あり

といふ言動ありは山原と始るは後田家志とて事ありとて  
らはつらとて事ありとて事ありとて事ありとて事ありとて  
本事とて事ありとて事ありとて事ありとて事ありとて事あり

修まれば他方より天正元年正月十二日別於妙心寺より塔を  
長祿合戦天正三十二年正月廿九日あり三年後正徳元年遠  
くして西國ゆきの為信玄憤死する事信長もあつた故に  
武田より長祿合戦を著すと云つて偏して信玄は武田  
家のものなりと云ふ事小間より信將の叔父あり勝頼は  
信長より云ふことと云ふことありておれども國を破つた  
と云ふ。信將の将虎は長祿合戦を著すと云ふ事と云ふ事  
年が色の叙を録なり。若しと云ふことと云ふ事と云ふ事  
これがよければと云ふ事。長祿合戦はと云ふ事なり  
天正三十二年正月日

甲陽軍鑑全集 卷六終

長祿約園を  
初段大物腰  
系  
長祿正

